

現役教師ですが
“教育”について
こんなことを考えてます。

—これからの教育を担う人たちへ—

受験生にとって聞けそうで、なかなか聞く機会がないのが現役教師の教育観。
毎月1つのテーマを取り上げ、先生方の考えを聞いてみました！

今月のテーマ：初任者

今月のテーマは初任者。誰でも初めての担任は失敗が多いもの。そこで抱える悩みをどう乗り越えるかが、その後の教員人生に影響を与えます。池田先生の場合はユニークな方法でした。

著 池田 康人

秋田県生まれ。2008年、小学校教諭となる。現在、千葉県習志野市立津田沼小学校教諭。

ものまね名人池田

妻は私をこう言います。「ものまね名人池田」。

私は、小学校から大学まで、サッカー部のキャプテンやクラスの学級委員を務めてきました。そして、休み時間の教室や部室では、失礼ですが、学校中の先生のものまねをしたり、プロ野球選手やサッカー選手、そして部員のプレースタイルの形態模写などをして、周囲の友達を笑わせていたものです。場を盛り上げることが大好きな、よくいる目立ちたがり屋のお調子者です。

7校目なのに「初任」？

現在38歳。そんな私が初めて教員採用試験に挑戦したのは、今から16年前のこと。

みなさんは「就職氷河期」という言葉をご存知でしょうか。約20年前、日本経済は不景気のどん底にあり、どこの会社を受けても内定をもらえない。教員採用試験もその例に漏れず、採用倍率は数十倍と、教師は今よりずっと狭き門という時代がありました。

出身地である秋田県は全国でもワーストの高倍率。大学、講師時代を過ごした栃木県も倍率は高く、どちらの県も受かる気配すらありません。辛い選択でしたが、私は地元や慣れ親しんだ土地で教鞭をとる夢を断念。複数の学校で講師経験を積みながら、5度目の採用試験挑戦の場を千葉県に変え、晴れて合格することができました。ようやく「講師」から「初任」として、小学校教諭になることができたのです。

初任校というものの、私にとっては実に7校目の学校でした。あれ、初任っていったい何だっけ……？

みなさんは、「初任」をどう捉えますか？読んで字の如く、「初めて何かを任される」。そう考えると私は、講師として初めて学級担任を任されたその日こそが「初任」のスタートだったように思います。

話し方や仕草、授業の仕方も、 とにかく「ものまね」

講師の時は短い赴任期間の中、小中学校で様々な学年、学級の児童生徒と出会いました。大学の保健

体育科を卒業したばかりの私は、体が動く分、とにかく子どもたちと一緒に遊びました。半ば子どもと同化していたようにも思います。授業もおぼつかなかった私に「先生」らしさは、おそらく皆無だったことでしょう。

その授業の裏側はというと……「〇〇先生！ 今日の1時間目の授業の進め方がわかりません！ 教えてください！」「習字の授業で後片付けが大変なことになっています。助けてください！」

お恥ずかしい話ですが、こんな毎日の連続でした。朝、子どもたちを迎える直前で学年主任の先生に泣き付いたり、授業中に隣のクラスに駆け込んだり……。ただ、普段、これでもかというくらい一緒に遊んだり、ふざけ合ったりしていた子どもたちは、困っている私をいつもあたたかい目で見てくれました。

授業は散々でしたが、「分からない」、「できない」という「初任」しか持つことのできない武器を活用し、よく先輩先生方を見聞きし、模倣したものです。そう、「ものまね名人池田」がフル稼働！ 行く先々の学校で、子どものハートをつかむのが上手な先生方の話し方や仕草、授業などをとにかくまねていました。そうした最中、私の大好きな、心から尊敬する先輩先生に雰囲気似ていると言われた時の嬉しさは、今でも忘れられません。

さて、ここで話を戻します。みなさんは、「初任」をどう捉えますか？ 私は、一口に「初任」と言っても、その意味は多様だと思うのです。教科主任を初めて任された年も初任、夫や妻になった年も初任、親になった年も初任。そう考えると、私は、職場や人生において、初任でなかった経験がありません。今年は、生徒指導主任の初任です。

「できない」、「わからない」は「初任」最大の武器

見渡せば、みんな何かの「初任」です。誰しもが大なり小なり、そこで悩みを抱えています。

それを1人で考え抜いて解決することも大切かもしれませんが、仲間や同僚、上司、そして家族など、たくさんの人と関わる中で解決策を見出す過程には、自分の考えを柔軟に、多様にしてくれる出会いや会話がつまっています。

私が難題にぶつかったときはいつもそうやって、凝り固まった自分の考えを変革してくれる出会いや会話を探し求めてきました。そこはフットサルコートであったり、夜の居酒屋であったり……。『明日、子どもたちの前で試してみよう』。ものまねのレパトリーが増えていく感覚で、とても楽しかったですね。

「できない」、「わからない」は「初任」最大の武器。それらを携え、教員の世界という枠を超え、できるだけたくさんの知見に出会ってみてはいかがでしょうか？ その世界を楽しめることこそが、無限の多様性を秘める子どもたちとの生活を楽しむことにつながる私は信じています。

連載スタートにあたって

■「生きる力」から「自分を変える力」へ

世界が刻々と変化し、激しい変化の波が押し寄せる予測不可能な時代になってきました。このような時代に、どのような力が必要なのでしょう。学校教育では、「わかった」、「できた」を目指す「生きる力」の育成が求められています。しかし、このような激流の時代においては、「わかった」、「できた」から「疑問」を重視する「自分を変える力」へと意識を変換することが必要ではないでしょうか。

言葉を変えれば、「わかった」、「できた」はすでに解決された過去のもの、しかし「疑問」は解決の過程で必要な変化を促し、未来を創るもの」という認識こそが重要なのではないかと考えます。

本連載は、そうした「自分を変える力」を考えることを目的としています。執筆陣は、教育やスポーツ等を通して地域に貢献することを目的として設立された「NPO法人チームスポーツやちよ」に参加する教員です。よろしくお付き合いください。

NPO法人チームスポーツやちよ 理事長
(元・千葉県八千代市教育委員会 教育長)加賀谷孝

今月のまとめ

- 悩みは1人で考えるのではなく、他の人との会話や出会いの中で解決策を見つけよう。
- 「できない」、「わからない」という「初任」最大の武器を手に、たくさんの知見に出会うことが子どもたちとの生活を楽しむことにつながる。